

第5回新しい学校づくり鳴門市地域協議会議事録

統合形態と再編時期について

委員

ただいまの説明について、ご質問、ご意見をお願いします。

委員

両校の培ってきた特色ある教育を引き継ぎ、発展させながら、新しい高校を創るという発想が最終的な考え方なので、私は第2案（鳴門工業高校情報理数科の生徒募集を継続）の考え方が良いと思います。この案では、鳴門工業高校の募集停止による小規模化を避けるため、工業類の募集停止と同時に情報理数科（仮称）を設置し、その生徒達は、入学する時は鳴門工業高校、卒業する時は新しい学校という徳島科学技術高校のような方式を取ることになります。ただ、今の案では、情報理数科に入っても新高校開校後、すぐに募集停止で、自分が入学した学科も数年後にはなくなるという寂しい現象が出てきますので、もう少し考えていただけたらと思います。

鳴門工業高校の工業類の募集停止を公表した時に、鳴門第一高校についても、新しく入学する1年生については、新高校が開校したときには、新しい高校の総合学科の生徒になると公表しておけば、新高校開校の時点では、情報理数科の1・2・3年、総合学科の1・2・3年となりますし、体育科にも1年生の生徒がいることとなります。そして情報理数科の募集停止と同時に新しい総合学科の情報通信系列の生徒募集を開始すれば、新高校開校の時点では横一線となり、情報理数科については、順次スライドしながら新しい学校の総合学科の情報通信系列に受け継がれていくこととなり、その方が良いのではないのでしょうか。そうすれば、新しい学校は、体育科と総合学科の2つの学科を持ち、学校規模も縮小することなくスタートできると思います。

事務局

事務局でも、鳴門工業高校の廃校と同時に、鳴門第一高校も廃校しまして、新高校になった時点では、新高校は、総合学科、体育科、情報理数科でスタートすることを考えております。

第2案（鳴門工業高校情報理数科の生徒募集を継続）は、第1案（鳴門工業高校の全コースの生徒募集停止）と違いまして、できるだけ小規模化を緩和して、鳴門工業高校の生徒にとって少しでも好条件になればと思います。情報理数科の生徒については、寂しいということもあるかもしれませんが、情報理数科の教育が情報通信系列の教育に継続され、活かされていくように考えて案を作っております。再編の移行期の生徒ができるだけ寂しい思いをすることがないようにと案を考えておりますので、ご理解いただけたらと思います。

委員

開校時には、情報理数科の1年生もいるが、開校した次の年から情報理数科を募集停止するというのですか。

事務局

耐震・改修工事に左右されますので確定してはおりませんが、工事完了後に情報通信系列の2年生の授業が始まるようにしたいと考えています。工事の最終年度に情報通信系列の1年生がいますが、1年生の間は実習の授業が少なく、実習施設を使用する授業が情報理数科の実習とほとんど重なりません。工事の最終年度に情報理数科の生徒が卒業して、情報通信系列の授業と実習施設が重ならないように募集停止のタイミングを計って参りたいと考えております。ただ、工事の進捗状況により、数年間ずれるという可能性があることをご理解いただきたいと思います。

委員

開校に向けたスケジュールについては、生徒募集の人数調整という点から、第2案の方が良いと思います。

耐震診断ができていないので、耐震診断の結果から耐震化にどれだけの工期が必要になるかによって、スケジュールに大きな違いが出てくると思います。第1案（鳴門工業高校の全コースの生徒募集停止）では、生徒がいない間にすべての工事ができ、大がかりなこともできます。第2案（鳴門工業高校情報理数科の生徒募集を継続）では、生徒がいる間に工事をしなくてはならないため、診断した結果が非常に悪かった場合には、生徒たちは長い間待たなくてはならないし、情報理数科も何年も存続することになります。工事期間中は、この教室が使えないというような状況も出てくるのではないかと不安もあります。鳴門第一高校より鳴門工業高校の校舎の方が古いという話も聞いておりますので、耐震してほぼ使えそうだというのであれば良いのですが、どこまで大がかりな工事が必要になるのか分からない状況のため、心配、危惧していることを申し上げます。

事務局

県から鳴門市にお願いして、部分的に校舎のコンクリートを抜いて、コンクリートの強度試験をしていただいております。鳴門第一高校の校舎の方が新しいのですが、鳴門工業高校の校舎のコンクリートは、築年数の割には強度が残っており、コンクリートの強度は両校とも遜色ない結果となっております。また、建て方にいたしましても、鳴門第一高校は、本館、南館ともに4階建てですが、鳴門工業高校の校舎は、情報技術棟だけが3階建てで、その他の校舎は2階建てであり、比較的耐震化がしやすい構造となっております。耐震診断してからでないとはっきりした結論はでないのですが、コンクリート強度試験の結果からは、古い鉄骨の建物2・3棟を除いた校舎に関しては耐震可能ではないかと推測しております。

委員

何かちょっとほっとするような説明でした。ただ、押さえておかなければならないのは耐震診断から工事が終わるまでには、最低4年はかかるということです。

委員

工業科なんですが、今、徳島東工業高校、徳島工業高校と、市立鳴門工業高校が統合して新しい工業の学校ができるとお聞きしておりますが、そちらの学校は何年度に開校になるのでしょうか。

事務局

新しい工業高校の統合計画をしたときには、鳴門工業高校は含まれておりません。徳島科学技術高校については、徳島工業高校、徳島東工業高校、水産高校の3校を再編統合するというので、平成21年度開校の予定で準備を進めております。

委員

21年度に新しい徳島科学技術高校ができるということですが、21年度には鳴門市内の工業系に進みたい生徒は、徳島にある徳島科学技術高校に進学することも可能ということでしょうか。普通科は学区制になっていきますけれど、工業系は関係なく受験できるということでしょうか。

事務局

徳島科学技術高校は、位置的にも鳴門市内から通学することが可能であり、専門学科のため全県一区となっておりますので、鳴門市内の生徒が進学を希望すれば受験可能です。鳴門工業高校の工業類の募集停止をするときには、徳島科学技術高校の定員を若干増やすなどの配慮が必要と思いますが、それまでの間は、生徒の意思で、鳴門工業高校でも、徳島科学技術高校でも自由に選択できます。

委員

鳴門工業高校が廃止になるということが既に噂されておりますので、21年度以降の鳴門工業高校に進む生徒の数が減ってしまう可能性もあるのでしょうか。

事務局

どのような状況になるのか、現時点では分かりませんが、徳島県内の各高校の募集定員などを参考にしながら、ご本人と保護者が相談してどの高校を受験するのか決定することになると思います。

委員

生徒たちに新高校に行きたいという思いを抱かせるために、両校の教育財産を活かしながら新高校に引き継ぐんだというコンセプトでこの協議会を行っていると思いますが、今いる生徒たちが不利益を被らないように、両校ともに無くなるのが惜しいというくらいまで発展させてから、新高校をスタートさせることが大切であると思います。両校の設置者が異なることから再編統合までの期間が長くなり、体育科をスタートさせる前段階の、鳴門工業高校の規模が段々と縮小していく中で、鳴門工業高校が今まで培ってきたスポーツや工業関係の特色が段々と薄れていき、魅力を引き継ぐというスローガンはあっても、現実的には特色が消えてしまったというようなことがないように、県と鳴門市ができるだけ知恵を出し合っていて、そうしたリスクを最小限に押さえる努力をお願いしたいと思います。学校を預かるものとして、そうしていただければ、元気を出して学校を盛り上げていく努力がしやすいと考えております。

委員

新高校の開校後に目がいきがちになっておりましたが、ここ数年間の再編前の子供たちや、学校のあり方を考えていくことも大切で、2校をさらに発展させたところで統合しようという貴重なご意見をいただきました。

委員

案1と比べると、案2の方が子供たちのために良いということは分かるのですが、先程のご意見にもあったように、移行期に子供たちが不利益をできるだけ被らないようにすることが非常に大事なことだと思います。県立高校同士が統合する場合には、兼務とか、教員配置の工夫ができるのだけれども、市と県という設置者が異なるということだけで、子供たちが不利益を被るとするのは、子供たちの立場に立てば、少し理解し難い気がします。県と市が互いに充分話し合いをして、県立同士が統合するときと同じような環境整備を何とか実現するということが大事だと思いますので、その点についてどうにかしていただきたいと思います。また、環境整備としては、先生の数の確保が最も大きな事だろうと思います。兼務ができればいちばんいいと思いますが、非常勤講師とか、臨時の先生を少し増やすことによってカバーしていくとか、子供たちのために何か良い方法を探っていただきたいと思います。

委員

教育のことはよく分からないので、突拍子もない話になるかも知れないのですが、まず鳴門工業高校を県立高校に一旦移管して、両校が県立高校になった上で統合というようなことは不可能ですか。設置者が県と市であるからいろいろ統合に際して問題があるのであれば、このような方法もあるのではないかと思います。

次に、新しい高校には体育科を新設して、部活動を積極的にやっていくという方向は示されているのですが、統合までの間に鳴門工業高校がどうしても人数が少なくなり、部活

動そのものが以前に比べてあまり活発に活動できないような環境になるのではないかという気がします。移行期間に、統合する学校が部活動を一緒にやるということもあったように思うのですが、鳴門第一高校と鳴門工業高校が部活動を一緒にしてスポーツを盛んにできるような環境を考えていただけたらと思います。せっかく体育科を創り体育に関するスペシャリストを養成していくのですから、ある程度の下地をこしらえておく必要があると思います。

また、統合までの間に、鳴門第一高校の定員は、一時的に今の定員より増えることとなりますが、鳴門第一高校の施設・設備等に問題はないでしょうか。その点を伺いたいと思います。

事務局

まず、1点目の鳴門工業高校の全学年が揃っている時点で県の方に移管してはどうかとのことですが、可能性がまるでないということはないのですが、来年鳴門工業高校に入学する生徒に関しては、事前に何の連絡もできておりませんので、来年度の入学生が卒業するまでの間はできないと思います。それ以後については、県と市の協議が必要になると思います。

それから体育科を設置するまでに鳴門工業高校の部活動が衰退しないように部活動の連携ができないかということですが、部活動の連携は可能です。日和佐高校と宍喰商業高校が合同でチーム編成した例などもあります。ただし、両校に全学年が揃っているという状況の場合には、大会等への出場について、その運動団体なり連盟の方に申請をして許可をいただくことになると思います。また、合同練習についても可能です。体育科を設置するまでに、ご指摘のとおり部活動の連携を進める必要があると考えております。

それから鳴門第一高校の定員が現在よりも増えることについて施設・設備上の問題はないのかということですが、160名までならば授業展開可能ということを鳴門第一高校に確認した上で、提示しております。

県教育委員会

先程、工業科の全学年が揃っているときに県に移管できないかというご質問がありましたが、工業科の全学年が揃っておりますと、すべての実習施設が必要となり、耐震改修工事ができなくなります。やはり工業類については徐々に人数を絞っていくパターンでないと工業関係の実習棟の耐震改修ができませんので、全学年が揃っている時点での移管というのは、現実的には難しいと考えております。

県教育委員会

部活動についてですが、これまでも再編統合が決まった学校については、両校で合同チームを編成し、県大会、全国大会に出場しております。高校野球連盟にしろ高校体育連盟にしろ、そうした環境は整っておりますので、人数が足りない場合は両校で合同チームを編成することも可能ですし、できるのであれば単独でチーム編成することも可能です。

委員

脱線しますが、鳴門第一高校と鳴門工業高校が合同で甲子園に出れば、すごいチームができるのではないかなと思います。

委員

以前にも申し上げましたが、鳴門工業高校は、市民の願いを込めて工業立国を目指して創られた学校で、卒業生もあらゆる場所で活躍しておりますが、市の財政状況が悪くなり、これまでも何度か、県に移管しようという動きがありました。「市立高校をもつのは、市の誇りである」という思いと財政上の問題との組み合わせの中で、「鳴門工業高校のこれからを考える会」を立ち上げ、私はその会長を務め、市教育委員会や関係者で協議いたしました。市長部局、市教育委員会ともに、もう鳴門市としては手放さざるを得ない、近代的な施設・設備を整えて工業人を作っていく予算的な余裕はないとの考えから、委員会でその方向で決議し、議会の承認を得た後、県教委の高校再編の事務局に、どうか高校再編の中に入れてもらえないかをお願いした時には、すでに徳島工業高校、徳島東工業高校、水産高校の3校が一体となる徳島科学技術高校ができるという構想がまとまっております。そのため、鳴門工業高校を、徳島科学技術高校の構想に含めることはできないが、今後、鳴門市の申し入れについては、県教委としても十分に配慮していきたいとのことであったと思います。市民の願いのこもっている鳴門工業高校の伝統を受け継いだ新しい高校を創らなければいけないと思います。

また、私は、鳴門第一高校の同窓会長ですが、撫養高等女学校、町立撫養商業学校については大正10年から15年ぐらいに要請があって商業学校を創り、卒業生が浄財を集めて見事な校舎を建てたにもかかわらず、太平洋戦争が終わるころまでに、戦後の高校再編の中で、徳島青年師範学校に取られてみたり、鳴門市に取られてみたりして、町立撫養商業学校の卒業生は悲劇、流浪の旅を強いられたのですが、その様な状況の下でも逸材をたくさん出しております。その後、私が卒業した撫養高等学校になり歴史を刻んだのですが、これからは商業教育だということで鳴門商業高校になり、それも20年くらいであえなくなり、また、これからは国際教養だということで国際教養科を創り、普通科を創り、商業科も残した学校である鳴門第一高校となりました。その時には、鳴門高校があるのにどうして鳴門第一などというナンバースクールの名前をつけたのかと、徳島新聞で大きく取り上げられたこともございました。しかし、その国際教養科も、初め2年か3年は、私ども中学校の教師もできるだけいい人材を送ろうと協力をし成果もありましたが、中学校が選別割りをしたのか、高校教育が足りなかったのか、終わりの頃には国際教養科と名乗りながら、学力の低い子供しか入ってこない状況となり、総合学科に再編して、現在に至っております。名前が5回も代わり、流浪の旅のように移転してきた高校はそんなにありません。私どもの母校は転々としてまいりましたが、私は母校に誇りを持っておりますし、鳴門第一高校の生徒にも誇りを持ってほしい。そのため、総合学科の子供たちが一生懸命やっている姿を、卒業生として一生懸命支えていこうと思います。また、体育科は成功するのかという地域の方からのご意見も耳にしますが、県下で一つしかない体育科を何とか

盛り上げて、誇りある体育科にしていかなければいけないと思います。総合学科についても同じことがいえます。

委員

新しい学校では両校の伝統をしっかりと受け継いでいくこと、また、現在や移行期の子供たちが不利益を被らないというより、むしろ、あの時はあの時で良かったと思えるくらいの、教育委員会の配慮を是非お願いしたいと思います。

また、募集定員に関しては、鳴門工業高校の募集を一旦停止して工事をしてから新高校を開校すると4年5年の空白ができますので、それよりは、情報理数科の生徒募集を続けながら、新しい系列に引き継いでいける方が良いというのが、皆さんの総意ではないかと思います。できるだけ早期に再編をしていただくというのは、ずっと今まで議論してきた熱い思いであり、是非ともよろしくお願いしたいと思います。

そして再編に関しては、いつも鳴門市の子供たちの立場に立って是非ご配慮していただきたいということを、協議会として要望したいと思いますがよろしいでしょうか。

それでは、地域協議会の今までの意見を踏まえて、今後、県と鳴門市で協議を進めていただけますよう是非お願いします。

報告書（案）について

委員

私の方から一点、3ページの総合学科についての人文科学系列で、文学部や法学部のところに教育学部を是非入れていただけるようお願いしたいのですが、ご検討お願いできますでしょうか。

事務局

追加させていただきます。

委員

4ページの特色ある教育の鳴門観光資源・特産物に（「渦潮」、「鳴門金時」など）と明示されていますが、以前の協議会の中で「大谷焼」が出ていたように思うので、「大谷焼」も入れていただきたらと思います。

委員

私からも、その方向でよろしく申し上げます。他にございませんでしょうか。

それでは、本協議会の委員全員が、この報告書（案）をおおむね了承したということでよろしいでしょうか。

今後、新たに追加・修正する点がございましたら、12月21日までに、事務局である鳴門第一高校までご連絡ください。なお、細かい表現等の修正につきましては、県教育委員

会に提出するまでの間に、事務局と私の方で相談の上、修正させていただきたいと思いますので、修正についてはご一任いただくということによろしいでしょうか。

次に、報告書の提出について皆様にお諮りします。先程の手順で内容表現等を修正したものを報告書とさせていただきますして、私から県教育委員会に提出したいと思いますがそれによろしいでしょうか。

それでは、その様にさせていただきます。

最後に、今後の再編の進め方について、県教育委員会としてどのように考えているのかご説明いただけますでしょうか。

県教育委員会

報告書のご提出を受けまして、再編の骨子について鳴門市と協議した上で、県教育委員会といたしまして、再編計画（案）を作成する予定といたしております。その後、パブリックコメントを実施いたしまして、広く県民の皆様からのご意見を募集し、いただきましたご意見を参考にしながら、再編計画を策定いたします。その後、開校準備委員会を立ち上げまして、ご報告いただいた教育の基本方針や教育内容を念頭におきまして、教育課程や必要となる施設整備について具体的に検討してまいりたいと考えております。

委員

ただ今のご説明に対して、ご質問等はございますか。

それでは、本日をもちまして、本協議会の任務を終了することといたします。